



《untitled (LT.100-01)》2014、162x130x5cm
©Yuichi Higashionna, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

東恩納裕一 “ Ubiq ”

会期: 2014年3月6日(木) - 4月5日(土)

会場: Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

オープニングレセプション: 3月8日(土) 18:00-20:00

東恩納裕一は、日常のありふれた素材、特にインテリアに関連したモチーフを使用して、絵画、オブジェのみならず、空間への独自のアプローチ／インスタレーションを行うアーティストです。

2001年より継続して制作されている「シャンデリア」シリーズには、多数の蛍光灯が使用されています(今回の新作には、初めてLEDも併用)。戦後日本の家庭に広く普及したサークル型蛍光灯は、白く明るい、フラットな光を好む日本／日本人のメンタリティー／感性を象徴しているように思えます。本シリーズは、この日本の“蛍光灯文化”に対して作家自身が感じるアンビバレントな思いの表明と言えます。

また、今回発表される新作絵画は、窓の格子・ブラインドにインスピレーションを得た作品です。これらモチーフは、インテリア／エクステリアの境界であると同時に、無意識に、私たちの認識の境界／私たちの認識を構成する環境として機能しているのではないかと、そして、表現を巡って、絵画にまつわる古くて新しい“抽象／具象”というテーマへの関心もそこに垣間見られます。

2015年には、NYのマリアン・ボエスキーギャラリーで、2度目の個展の開催が予定されています。

本展では、シャンデリアや絵画のシリーズ、そして2008年以来、久々の発表となる映像作品など、新作の数々をご紹介します。ぜひ、ご高覧ください。

**■Statement**

“何故、日本人は、蛍光灯による白く明るい照明を好むのか…？”
という一つの疑問／謎。インテリアを巡る関心、それに触発された作品の意図とは以下のようなものです：

プライベートなインテリアには、私たちの内面（趣味・指向性）が反映される。と同時に、翻って、内面を形成する外面（共有される価値観／超越的な他者の視線／抑圧）をそこに読み取ることができるのではないか。ただ、それ（“抑圧”）は、かつてとは異なり、私たち自らが好んで受け入れ、快適ささえ感じる、微分され遍在する環境／自然として、意識されない／見えない存在として。そう、カタカナ表記される“インテリア”が、その本来の意味（interior=内面）を見えなくし、忘れさせるように。

見えない／見なくなったものを、見えるように、作品は、そこにある意味を強調・徹底化、私たちを、それに直面化させる。



《untitled (chandelier 17)》 2014、80x70x70cm 2014
©Yuichi Higashionna, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

東恩納裕一

■東恩納裕一 プロフィール

[主な個展]

- 2012 「Apparition」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
「東恩納裕一/FL」 CALM&PUNK GALLERY/NADiff GALLERY (東京)
- 2011 「fluorescent」 Marianne Boesky gallery (ニューヨーク, アメリカ)
- 2010 「Venice/Tokyo」 Venice Projects (ベニス, イタリア)
- 2009 武蔵野美術大学 80 周年記念展「変成態—リアルな現代の物質性 Vol.4」 gallery α M (東京)

[主なグループ展]

- 2013 「アートがあれば II — 9 人のコレクターによる個人コレクションの場合」東京オペラシティアートギャラリー (東京)
「Junkies' Promises: Curated by Iván Navarro」 Paul Kasmin Gallery (ニューヨーク, アメリカ)
- 2011-12 THE MARGULIES COLLECTION AT THE WAREHOUSE (マイアミ, アメリカ)
- 2011 「MASKED PORTRAIT PART II When Vibrations Become Forms」 Marianne Boesky Gallery (ニューヨーク, アメリカ)
「Glasstress 2011」 ヴェネチア・ビエンナーレ (ヴェネツィア, イタリア)
- 2010 「The New Décor」 Hayward Gallery (ロンドン, イギリス)
- 2009 「インシデンタル・アフェアーズ うつろいゆく日常性の美学」 サントリーミュージアム[天保山] (大阪)
- 2008 「The Masked Portrait」 Marianne Boesky Gallery (ニューヨーク, アメリカ)
- 2007 「六本木クロッシング 2007 未来への脈動」 森美術館 (東京)
- 2006 「愉しき家 Enjoyable House」 愛知県美術館 (愛知)
- 2004 「Officina Asia」 ボローニャ近代美術館 (ボローニャ, イタリア)

[コミッションワーク / プロジェクト / その他]

ペリーニ・コンドミニウム エントランス (マイアミ)、グランドハイアット東京、ヴァンジ彫刻庭園美術館 (ミュージアムショップ NOHARA)、コム デ ギャルソン、銀座メゾンエルメス (ウィンドーディスプレイ)